福祉の世界にとびこんだ私の履歴書――社会福祉経営全国会議

4 子どもたちから高齢者まで、バランスよく暮らせるコミュニティの復活を

小林　忍（しのぶ）（社会福祉法人鎌倉たんぽぽ会理事長）

国鉄労働組合での運動がスタート……◆

鎌倉たんぽぽ会は、任意団体「深沢たんぽぽ会」が長い運動を経て一九八八年に設立した社会福祉法人で、現在二つの保育園を運営しています。

私は川崎市にあった国鉄の新鶴見操車場という職場で貨物輸送の仕事をしながら大学を卒業し、教職をめざしていました。ところが、職場の上司が思想信条を理由に不当な差別をしていることがわかり、教職の道を封印し、これと闘うことにして国鉄にそのまま勤務することにしました。労働運動にも積極的に関わり国鉄労働組合の役員になり、とくに働くものの立場からの日本の物流や貨物政策の立案に関わって、民主的再建策を掲げて全国オルグなどもしました。

運動で無認可園への独自補助と保護者助成を獲得…◆

私の保育園との出会いは、三九年前になります。相方は市立保育園の保母で、結婚して七年目にして誕生した長女を抱っこして江ノ電に乗り、路地を抜け、酒屋さんの奥にあった民家の無認可保育所に子どもを預けて仕事に行っていました。当時は、公立保育所では産休明け保育は実施していませんでした。

その後、相方の職場異動で、下の二人の子どもは「たんぽぽ共同保育園」へ通うことになりました。とくに三女が病気（ネフローゼ症候群）で入退院をくり返すことになり、退院時の保育をたんぽぽ共同保育園にお世話になりました。

当時の無認可保育所は、年度末に在園していた子どもが新年度には公立保育所に転園して、子どもが定員の半数前後になり、保育所運営は火の車の状態が日常化していました。したがって物品販売やバザー等で資金を集め、保護者にカンパを訴えて夏や冬の職員の一時金に当てました。

そんな状況のなかで、私も保育所の経営と運営に責任をもっていた任意団体の理事に加わり、事業の継続と安定的運営をめざすことになりました。理事も職員も、子どもたちに発達保障を実現するために学習し、市内の三つの無認可園が共同して行政に働きかけ、家賃補助、研修費補助など次々に実現しました。実現した鎌倉市の無認可保育所に対する市の独自補助や保護者助成は、全国的にも抜きんでて、産休明け保育を希望する保護者が他市からも転居してきました。

市単独補助の獲得から認可園へ……◆

私たち保育所の運営と運動は、小規模無認可保育所の不安定な保育所運営の解消や就学時までの保育の希望の拡大から、公的認可を得ようとする願いに広がっていきます。県下でも少子高齢化がすすむ鎌倉市の人口構成を分析し、子どもたちから高齢者までバランスよく暮らせる地域づくりにとって認可保育所が如何に大切か、市単独補助無認可保育所を国の制度に乗せることで市の財政支出を抑えることができることなどを訴えて、市有地の提供と認可を求め運動を展開しました。

そんな取り組みもあって、市からの施設の提供があり、三園共同で資金と人と知恵を持ち寄り、一つ目の保育園の認可が実現します。保育所の開設にとって用地問題は大きな課題で、医療機関との合築案、民有地の購入案などさまざまな変遷を経て、私たちは市有地の提供を受け、認可にたどりつきました。その後、分園の開設を経て二つの保育園の経営と運営に責任をもつことになりました。最後の残っていた無認可園も協力し合って認可が実現しました。

認可運動のなかで、一貫して子どもたちから高齢者までバランスよく暮らせる地域づくりをめざしてきました。いま、公が壊され地域の公的施設の集約化が進んでいますが、小学校区ごとに公的施設や就学前の教育・保育を担う施設を整えることを通じて、コミュニティを復活させたいと思っています。